

みなさん、こんにちは。

5月7日(日)、ゴールデンウィーク終了とともに与勇輝展が閉幕しました。

## 1. 与勇輝展が終了 観覧者数 37,850 人で過去最高を記録

5月7日(日)与勇輝展最終日、前の晩からの雨が日中も残り大雨の一日でしたが、9:30の開館時間前から入口には行列ができていました。ゴールデンウィークの始まった4月30日からは連日2000人~2700人という人が訪れ、会場内には長蛇の列が続きました。今回の観覧者数は新春特別展「片岡鶴太郎展」の33,724人を上回る37,850人で、特別展としての過去最高記録を塗り替えることになりました。アンケートを見ると、大阪・奈良・和歌山のほか、岡山や広島からも足を運ばれた方もおられました。魅力ある人形たちの力はすごいものです。



最終日の観覧



サイン会で声をかける与さん



アンケートの声には、「女の子や子どものちょっとしたしぐさで気持ちを表現されています」「子どもの顔が私の孫の顔に少し似ていました」という大阪の方。「人形作りのビデオがとっても参考になりました」「こんな近くに博物館があるとは知りませんでした」とは須磨の女性。2回3回というリピーターも多かったのですが、「初めて来ました」という方も多かった展覧会でした。

フランス・パリのバカラ美術館で公開された新作の人形たちが、現在、横浜高島屋で公開されています。「横浜よりも明石の方の人出が多いですね」と与さん。この新作展覧会は10月に神戸大丸で公開される予定です。

5月8日(月)、明石でひと月を過ごした人形たちが河口湖に向けて帰っていきました。

## 2. 06 郷土作家シリーズ「北村李軒展」～南画にかけた歩みと交流～

やわらかな描線が生み出す南画の世界で旺盛な創作活動を続けた北村李軒さん。初期から晩年までの代表作を師であった細谷立斎さんの作品とともに展覧します。茶の湯を通じて親交のあった陶芸家三浦竹軒さんなどの作品も合わせて紹介します。明石に生き、文人として風雅を愛でた李軒さんの歩みと幅広い交流の足跡をたどります。

期間：5月13日(土)～6月11日(日)



牡丹之図(北村李軒)



黄甲伝芦(北村李軒)



鼠図茶碗(三浦竹軒)

### 講演会のお知らせ

#### 日本の南画の流れ 与謝蕪村・池大雅から北村李軒へ

日時：5月21日(日)14:00～15:30  
講師：木村重圭氏(甲南女子大学教授)  
定員：100名  
申し込み：電話予約受付中  
要博物館観覧料